

調布市不登校児童生徒支援プロジェクト

S W I T C H

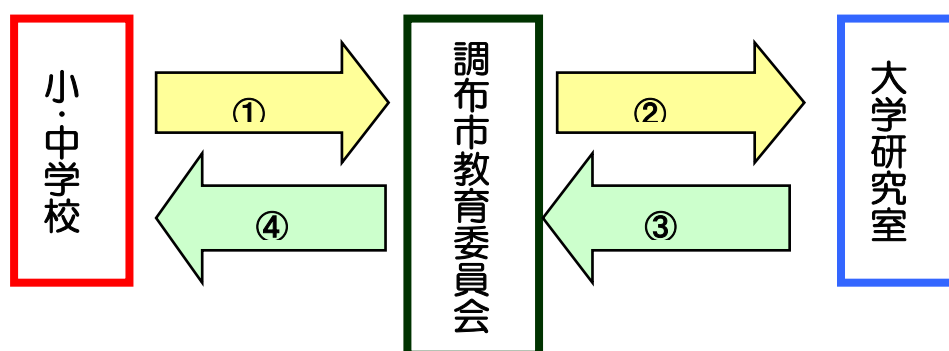
調布市教育委員会・東京学芸大学松尾研究室

児童・生徒支援個別票(個票)

- ・児童・生徒の不登校の状態や様子を記録し、整理するためのものです。
- ・対象は、月に**4日以上**欠席している児童生徒です。
- ・担任の先生をはじめとする学校の先生方に記入していただきます。
- ・個票の記入内容を基に、大学研究室で専門的な視点に基づいた所見をお返しします。



個別票見本



メンタルフレンド(MF)

マンツーマンでの活動

- ・大学生や大学院生が「お兄さん・お姉さん」的存在として個別に児童生徒とかかわります。
- ・家庭訪問、学校内での個別支援など、児童生徒の**ニーズに合わせた支援**ができます。
- ・遊びを通じたかかわり、個別学習など活動内容は児童生徒によって様々です。
- ・学校の先生方との情報共有など、学校との連携にも力をいれています。

テラコヤ・スイッチ

小集団での活動(中学校のみ対象)

- ・週1回、調布市教育会館にて2時間の活動を行います。
- ・活動は、「**学習の時間**」と「**自由時間**」が設定されています。
- ・学生スタッフや同年齢の生徒による小集団の中で学習したり遊ぶことができます。
- ・**小集団の中での活動**を経験し、ルールやマナーを学ぶことができます。

児童・生徒支援個別票(個票)

個票作成の利点・効果

平成 17 年 4 月より「調布市不登校児童生徒支援プロジェクト SWITCH」事業の一環として、児童生徒の不登校傾向の早期把握を目的とした「児童・生徒支援個別票」を導入してまいりました。

不登校傾向の早期把握・理解

- ◆不登校状態にある、または傾向のある児童生徒の現状やニーズ、変化の把握に役立ちます。
- ◆欠席日数や児童生徒の状態などについて、毎月の変化を追うことができます。

児童・生徒の情報共有

- ◆個票記入を通して、教職員間で情報を共有することが出来ます。
- ◆記録としても残るため、関係者内で自由に閲覧することができ、情報共有促進に役立ちます。
- ◆担任の先生が一人で悩んで苦しんでしまうことを予防します。

効果的な支援計画

- ◆学校として支援出来ることは何かを考え、実行に移すのに役立ちます。
- ◆学校だけでは支援出来ないことは何かを考え、他機関紹介を検討します。



メンタルフレンド(MF)

・遊びを通して、コミュニケーション能力の育成を図る

- ①遊びを通して児童生徒との関係づくりに努め、安心してかかわれる人間関係を感じてもらうこと。
- ②遊びの中で示される様々な表現を受けとめることで、児童生徒に自尊感情やコミュニケーション能力の育成を図ること。
- ③メンタルフレンドとの遊びを通して、他者とかわる際のルールを少しずつ学んでもらうこと。

・個別学習を行い、児童生徒のペースに合わせて学力の向上を図る

- ①児童生徒の集中の続く範囲で勉強を行い、勉強への嫌悪感を持たせないことや、少しずつ勉強する習慣を身につけてもらうこと。
- ②児童生徒のつまづいている部分、勉強したいところをピンポイントで学べるようにすること。
- ③個別で行うことで、周りの児童生徒が気になる子でも集中して取り組めるようにすること。

・学校の先生との連絡をとり、児童生徒の情報交換を図る

- ①学校で活動する場合、担任の先生をはじめ関係者の方との情報交換を行い児童生徒を様々な側面から理解の促進を目指すこと。
- ②児童生徒の自宅で活動する場合、学校と連絡をとりご家庭での活動中の様子をお伝えすること。

テラコヤ・スイッチ

テラコヤ・スイッチは平成18年10月から、中学生を対象に活動を開始しました。少人数での活動を行い、生徒にとってよい居場所となることを目指しています。活動の内容は生徒のその日の状況や希望に合わせて、学生スタッフが臨機応変に対応しています。基本的には、初めの1時間を学習時間、後の1時間を自由時間としていますが、生徒によって過ごし方は様々です。また、時間内であれば、いつ来ても、いつ帰っても大丈夫です。

学習の時間(4時～5時)

・個別指導形式

- ①生徒の集中の続く範囲で勉強を行い、勉強への嫌悪感を持たせないことや少しずつ勉強する習慣を身につけてもらうこと。
- ②生徒のつまづいている部分、勉強したいところをピンポイントで学べるようにすること。

・複数の生徒が同じ部屋で勉強する

- ①「少し離れたところに他の生徒がいる」状況での勉強に慣れることで、「学級での授業」の前段階の練習になるようにすること。

・学習教材

- ①調布市の中学校で使用されている教科書を準備し、学校で行われている勉強にもとづいた指導が行えるようにすること。

自由時間(5時～6時)

・学生スタッフや他の生徒と複数で遊ぶ

- ①小集団で遊ぶ経験の中で、その場の楽しみ方や周囲への気配りなどのルールを学べるようにすること。また、ゲームのルールを知ること、友達や家族とも遊べるようにすること。

・担当のスタッフとゆったりした時間を過ごす

- ①生徒の気分が乗らない場合、担当者が付き添い好きなことをする時間にもできます。その中で、いろいろな話をしたり生徒の理解につながることも多くあります。